

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I		講義	中谷 勝己	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力は眼の状態を把握する上で大切な指標です。眼の屈折は正視、近視、遠視、乱視のことを表し、視力に影響する因子の1つです。眼科では、それらを把握するためにレンズを用いて視力検査と屈折検査を行います。この授業では、「視力」「視力検査」「眼の屈折」「レンズ」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
視力検査と屈折検査を行う上で必要な基本的知識を理解することを目的とし、以下のことを到達目標とする。 ①視力の概念を理解できる。②視力検査の方法と判定の仕方を理解できる。③眼の屈折の定義を理解できる。④レンズの種類、度数の表し方を理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	感覚器、視覚、視力を評価する基準			
2	視力、視力検査の視標、Landolt環、Landolt環と視力の関係			
3	距離を変えた時に判別できるLandolt環の切れ目の幅、視力の種類(矯正レンズの有無、距離、表示方式など)			
4	視力の種類(測定眼、視標の動静、コントラスト感度)、視力に影響する因子			
5	視力検査(目的、分類、基準)			
6	視力検査(方法、判定)			
7	視力検査(注意点、カルテ記載法)			
8	眼の屈折(正視、近視、遠視)			
9	眼の屈折(乱視①)			
10	眼の屈折(乱視②)、眼の遠点			
11	レンズの形状と分類、球面レンズ度数の表し方			
12	円柱レンズ度数の表し方			
13	トーリックレンズ度数の表し方			
14	軸転換			
15	等価球面度数			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬	金原出版		
視能学 第2版	丸尾敏夫 他	文光堂		
視能学エキスパート 光学・眼鏡	松本富美子	医学書院		
眼科検査ガイド 第2版	根木昭 他	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学	和田直子 他	医学書院		
目でみる視力・屈折検査の進めかた 改訂第2版	所敬 他	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理解を深めよう視力検査屈折検査	所敬 他	金原出版		
自由記載				
備考				
幾何光学と連動して授業を進めるため、進捗状況によって変更が生じる場合があります。				